

日米共同方面隊指揮所演習 YS77を見学して

川島 順 予科 21-7
(越谷市) 航空 7-1

令和 1 年 1 2 月 1 4 日 (土) 朝霞駐屯地で行われた 日米共同方面隊指揮所演習 (YS77) に招待されて、YS77の説明と実際のコントロールセンターの状況を見学してきた。

ところでYS77とは何かというと、まずYSのYは在日米陸軍司令部の愛称「富士山：YAMA」の頭文字Y、Sは陸上自衛隊の愛称「桜：SAKURA」の頭文字Sを表している。



在日米軍司令部
シンボルマーク



陸上自衛隊
シンボルマーク

この日米共同演習は昭和57年(1982)富士御殿場の滝ヶ原駐屯地で第1回が開催されてから今回で77回目となるので、この演習をYS77と略称している。



YS77のシンボルマーク「山桜」

今回のYS77は、朝霞駐屯地の他に、熊本の健軍駐屯地、沖縄のキャンプ・コートニーでも同時に開催されている。

当日、私は和光駅に1時過ぎに行き、迎いのシャトルバスに乗って、朝霞駐屯地の一番奥の振武台碑の裏にある研修棟に案内された。入り口で、カメラや携帯電話等を取り上げられて、しばらく休憩室で休んでいると、2時定刻に、研修室に案内され、YS77についての説明があった。

説明は指揮所訓練支援隊の荒巻1佐殿、投影されるビデオの画面に対応して、我が国を取り巻く安全保障、東部方面隊の概要、YSの概要と東部方面隊の関係等について解説された。なお、YS77の演習担当官は米国は第1軍団長ヴォレスキー中将、日本側は東部方面總監小野田陸将である。この説明でやっと本日の演習の概要が分かってきた。



ヴォレスキー中将



小野田陸将

朝霞駐屯地の役割は、日米共同演習のコントロールセンターであって、演習の計画の立案、その計画に基づいて隷下部隊に命令を発する統帥部施設(CCF)、その命令を受けて日米共同作戦を立てる演習部施設(COIC)、さらにその作戦の細部について検討する共同セルより構成されている。

共同セルには、航空セル、空域セル、法務セル、広報セル、支援セル、ネットワークセル、民事セル等演習に関連する各分野の専門セルが設けられている。

いずれの施設及びセルでも日米の隊員が共同で作業をしている。

説明が終わると、案内担当の隊員に連れ

られ一団となって各施設を巡回して、実際の現場を見学してきた。

統帥部施設や演習部施設は大部屋に50～60人の隊員が満員の状態で詰め込まれていて、下図に示すように各隊員は隊長を背にして数列に並べられた机に向かってパソコンを操作している。

日米、男女混合で、中にはパンを食べながらパソコンをいじっている米国の女の兵隊さんもいた。皆、肩に国旗を付けているがカナダの国旗を付けた兵隊さんもかなり混じっていた。

共同セルは10人程入れる小部屋で、それぞれ専門の分野の仕事をしている。

お互いの会話は日本語、英語で勝手にしゃべっているが、大事な会議では通訳付きで会議をしているとのこと。このように作戦会議は総てパソコンを通じて立案され、ネットワークを通じて下部組織に命令され、一戦部隊も端末によって指揮系統が維持されているとのこと。ハッカーによってネットワークが破壊されたらどうなるかと一寸と心配した。



各施設の隊員の作業状況 (米陸陸部隊ブログより)

手紙で案内を受けたときは、日米共同演習とは朝霞駐屯地で射撃やヘリとの共同作戦を行うものと思っていたが、見学した感想では作戦室と云った緊張した雰囲気は全くなく、丁度パソコンの会社のプログラマーの部屋と云った感じであった。しかし、入室の場合は顔認識システムによってチェックしている。また、カメラ、携帯、個人用パソコンの持ち込みは禁止されている。入り口の机の上には何十台という携帯電話が並べられていた。

恐らく入室した隊員の持ち物であろう。